

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

In re application of: Hisatoshi YAMAUCHI, et al.

Serial Number: Not Yet Assigned

Filed: January 22, 2004

Customer No.: 38834

For: COMBINED MODULE OF FOLDING CONTAINER

CLAIM FOR PRIORITY UNDER 35 U.S.C. 119

Commissioner for Patents
P. O. Box 1450
Alexandria, VA 22313-1450

January 22, 2004

Sir:

The benefit of the filing date of the following prior foreign application is hereby requested for the above-identified application, and the priority provided in 35 U.S.C. 119 is hereby claimed:

Japanese Appln. No. 2003-132828, filed on May 12, 2003

In support of this claim, the requisite certified copy of said original foreign application is filed herewith.

It is requested that the file of this application be marked to indicate that the applicants have complied with the requirements of 35 U.S.C. 119 and that the Patent and Trademark Office kindly acknowledge receipt of said certified copy.

In the event that any fees are due in connection with this paper, please charge our Deposit Account No. 50-2866.

Respectfully submitted,
WESTERMAN, HATTORI, DANIELS & ADRIAN, LLP



Scott M. Daniels
Reg. No. 32,562

Atty. Docket No.: 032181
1250 Connecticut Ave, N.W., Suite 700
Washington, D.C. 20036
Tel: (202) 822-1100
Fax: (202) 822-1111
SMD/II

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日 2 0 0 3 年 5 月 1 2 日
Date of Application:

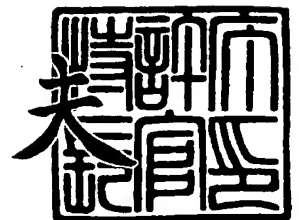
出 願 番 号 特 願 2 0 0 3 - 1 3 2 8 2 8
Application Number:
[ST. 10/C]: [J P 2 0 0 3 - 1 3 2 8 2 8]

出 願 人 三 甲 株 式 有 限 公 司
Applicant(s):

2 0 0 3 年 1 1 月 1 9 日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Japan Patent Office

今 井 康



出 証 番 号 出 証 特 2 0 0 3 - 3 0 9 5 7 6 8

【書類名】 特許願

【整理番号】 H03SA12

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 B65D 6/18

【発明者】

【住所又は居所】 岐阜県本巣郡穂積町大字本田 4 7 4 番地の 1 三甲株式会社
会社内

【氏名】 山内 寿敏

【特許出願人】

【識別番号】 591006944

【住所又は居所】 岐阜県本巣郡穂積町大字本田 4 7 4 番地の 1

【氏名又は名称】 三甲株式会社

【代表者】 後藤 甲平

【代理人】

【識別番号】 100099542

【住所又は居所】 神奈川県横浜市西区平沼 1 - 1 2 - 1 - 1 2 0 1

【弁理士】

【氏名又は名称】 平井 保

【電話番号】 045-312-6740

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 028853

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9205282

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書**【発明の名称】 折り畳みコンテナの組み合わせモジュール****【特許請求の範囲】**

【請求項 1】 折り畳みコンテナの組み合わせモジュールにおいて、大箱折り畳みコンテナの底部の長辺側土手部が、短辺側土手部より高く構成されていることを特徴とする折り畳みコンテナの組み合わせモジュール。

【発明の詳細な説明】**【 0 0 0 1 】****【発明の属する技術分野】**

本発明は、底部と、底部の長辺側土手部にヒンジ連結された長側壁と、底部の短辺側土手部にヒンジ連結された短側壁とからなり、長側壁及び短側壁を、底部に重なるように折り畳むことができる大箱折り畳みコンテナと、大箱折り畳みコンテナの底部の略半分の大きさを有する底部と、底部の長辺側土手部にヒンジ連結された、大箱折り畳みコンテナの短側壁と略同じ大きさを有する長側壁と、底部の短辺側土手部にヒンジ連結された、大箱折り畳みコンテナの長側壁の略半分の大きさを有する短側壁とからなり、長側壁及び短側壁を、底部に重なるように折り畳むことができる小箱折り畳みコンテナとの組み合わせモジュールに関するものである。

【 0 0 0 2 】**【従来の技術】**

従来、折り畳みコンテナの組み合わせモジュールを構成する大箱折り畳みコンテナの底部の長辺側土手部が、短辺側土手部より低く形成されている折り畳みコンテナの組み合わせモジュールが知られている（例えば、特開 2 0 0 2 - 2 6 9 6 号公報）。

【 0 0 0 3 】**【発明が解決しようとする課題】**

従来の折り畳みコンテナの組み合わせモジュールを構成する大箱折り畳みコンテナの底部の長辺側土手部が、短側壁がヒンジ連結されている短辺側土手部より低く形成されているために、大箱折り畳みコンテナの底部の強度や剛性が

小さく、従って、大箱折り畳みコンテナが、負荷やひねりにより、変形し易いという問題があった。このような問題は、大箱折り畳みコンテナの上に、小箱折り畳みコンテナを積み重ねた場合に、特に、大きな問題となる。

【 0 0 0 4 】

本発明の目的は、上述した従来の折り畳みコンテナの組み合わせモジュールが有する課題を解決することにある。

【 0 0 0 5 】

【課題を解決するための手段】

本発明は、上述した目的を達成するために、折り畳みコンテナの組み合わせモジュールにおいて、大箱折り畳みコンテナの底部の長辺側土手部を、短辺側土手部より高く構成したものである。

【 0 0 0 6 】

【実施例】

以下に、本発明の実施例について説明するが、本発明の趣旨を越えない限り何ら、本実施例に限定されるものでない。

【 0 0 0 7 】

先ず最初に、図 1 ～図 5 を用いて、折り畳みコンテナの組み合わせモジュールを構成する大箱折り畳みコンテナ C b について説明する。

【 0 0 0 8 】

1 は、平面形状が長方形の底部であり、底部 1 の相対する長辺側土手部 1 a には、適当なヒンジ部材を介して長側壁 2 がヒンジ連結されており、また、底部 1 の相対する短辺側土手部 1 b には、同じくヒンジ部材を介して短側壁 3 がヒンジ連結されている。長辺側土手部 1 a は、短辺側土手部 1 b より高く構成されており、底部 1 と長側壁 2 とのヒンジ連結部は、底部 1 と短側壁 3 とのヒンジ連結部より高い位置にある。

【 0 0 0 9 】

図 1 に示されているように、箱型に組み立てられた状態の大箱折り畳みコンテナ C b を折り畳むには、先ず最初に、短側壁 3 を大箱折り畳みコンテナ C b の内側に倒して、図 2 に示されているように、底部 1 の上に重ねる。次いで、同

じく、長側壁 2 を大箱折り畳みコンテナ C b の内側に倒して、図 3 に示されているように、底部 1 及び短側壁 3 の上に重ねる。逆に、図 3 に示されている折り畳まれた状態から、図 1 に示されているように組み立てるには、底部 1 及び短側壁 3 の上に重ねられた状態の長側壁 2 を略垂直に立て、次いで、短側壁 3 を略垂直に立てて、大箱折り畳みコンテナ C b を箱型に組み立てる。

【0010】

次に、図 3～図 5 を用いて、底部 1 について説明する。

【0011】

底板 1 c の裏面には、長辺側土手部 1 a に略平行な複数のリブ 1 d 1 及び短辺側土手部 1 b に略平行で、上記リブ 1 d 1 と交差する複数のリブ 1 d 2 を垂下するとともに、周囲を周辺枠 1 d 3 で囲むことにより、リブ 1 d 1 と 1 d 2 の下端及び周辺枠 1 d 3 の下端により形成された下面が、短辺側土手部 1 b 及び長辺側土手部 1 a の下端より、下方に位置する底部嵌合部 1 d が形成されている。

【0012】

本実施例においては、底部嵌合部 1 d は、長辺側土手部 1 a に沿った中央部において、短辺側土手部 1 b に平行な嵌合溝 4 により、2 つの同じ形状の副嵌合部 1 d' に 2 分されている。本実施例においては、底部嵌合部 1 d が、嵌合溝 4 を挟んで配置された、2 つの副嵌合部 1 d' により構成されているので、周辺枠 1 d 3 も、各副嵌合部 1 d' を構成する交差するリブ 1 d 1、1 d 2 を、それぞれ囲むように構成されている。底部嵌合部 1 d の 4 つの角部領域、換言すれば、副嵌合部 1 d' の底部 1 の角部 1 e 側の角部領域には、底部 1 の角部 1 e 方向に延在する張出部 1 f が形成されている。

【0013】

張出部 1 f は、長辺側土手部 1 a に平行な長辺側壁部 1 f 1 と短辺側土手部 1 b に平行な短辺側壁部 1 f 2 とを有しており、また、長辺側壁部 1 f 1 は、底部嵌合部 1 d (副嵌合部 1 d') を形成する周辺枠 1 d 3 方向に延在する傾斜部 1 f 3 を介して、長辺側土手部 1 a 側に位置する周辺枠 1 d 3 に連結されており、同様に、短辺側壁部 1 f 2 は、底部嵌合部 1 d (副嵌合部 1 d') を形成する周辺枠 1 d 3 方向に延在する傾斜部 1 f 4 を介して、短辺側土手部 1 b 側に位置す

る周辺枠 1 d 3 に連結されている。なお、長辺側壁部 1 f 1、短辺側壁部 1 f 2 及び傾斜部 1 f 3、1 f 4 により囲まれた空間にも、上述したリブ 1 d 1、リブ 1 d 2 が形成されている。

【 0 0 1 4 】

底部 1 の長辺側土手部 1 a の両端部には、平面形状が略 L 状の角部ブロック 1 g が形成されており、角部ブロック 1 g には、内側段部 1 g 1 が形成されている。折り畳まれた状態の大箱折り畳みコンテナー C b 同士を段積みした際には、上に位置する大箱折り畳みコンテナー C b の底部嵌合部 1 d の張出部 1 f が、下に位置する大箱折り畳みコンテナー C b の底部 1 に形成された角部ブロック 1 g の内側段部 1 g 1 に嵌合されるように構成されている。

【 0 0 1 5 】

短側壁 3 の外壁面（大箱折り畳みコンテナー C b を箱型に組みたてた際に、外側に位置する面）の上部角部領域には、縦方向に延在する係合凹部 3 a が形成されており、係合凹部 3 a には、複数の嵌合突起 3 a 1 が形成されている。また、短側壁 3 の内壁面（大箱折り畳みコンテナー C b を箱型に組みたてた際に、内側に位置する面）3' の上部角部領域には、横長の嵌合凹部 3 b が形成されており、嵌合凹部 3 b は、底面 3 b 1 と、短側壁 3 の中央部側に形成された傾斜面 3 b 2 と、奥壁 3 b 3 とにより形成されている。嵌合凹部 3 b は、上部と、内側と、傾斜面 3 b 2 と反対側の端部が開放されている。

【 0 0 1 6 】

長側壁 2 の垂直端の上部からは、短側壁 3 方向に延在する係合枠 2 a が形成されており、係合枠 2 a には、上述した短側壁 3 の係合凹部 3 a に突設された嵌合突起 3 a 1 が嵌合可能な透孔 2 a 1 が穿設されている。また、長側壁 2 の垂直端の上部に形成された係合枠 2 a は、大箱折り畳みコンテナー C b を箱型に組みたてた際に、短側壁 3 の上部角部領域に形成された係合凹部 3 a に入り込むとともに、短側壁 3 の係合凹部 3 a に突設された嵌合突起 3 a 1 が、長側壁 2 の係合枠 2 a に穿設された透孔 2 a 1 に嵌入し、箱型に組み立てられた大箱折り畳みコンテナー C b が、簡単には、底部 1 方向に倒れないように構成されている。

【 0 0 1 7 】

また、長側壁 2 の係合枠 2 a 側の内壁面（大箱折り畳みコンテナ C b を箱型に組み立てた際に、内側に位置する面）2' の上部角部領域には、横長の嵌合凹部 2 b が形成されており、嵌合凹部 2 b は、底面 2 b 1 と、長側壁 2 の中央部側に形成された傾斜面 2 b 2 と、係合枠 2 a の内壁面 2 a 2 とにより形成されており、上部と内側が開放されている。

【0 0 1 8】

大箱折り畳みコンテナ C b を箱型に組み立てた際には、短側壁 3 の内壁面 3' の上部角部領域に形成された横長の嵌合凹部 3 b と、長側壁 2 の係合枠 2 a 側の内壁面 2' の上部角部領域に形成された横長の嵌合凹部 2 b とにより、箱型に組み立てられた折り畳みコンテナの内部隅部には、平面形状が、略 L 字状の張出部嵌合凹部 5 が形成されている。

【0 0 1 9】

箱型に組み立てられた大箱折り畳みコンテナ C b を、上下方向に段積みした際には、上に位置する大箱折り畳みコンテナ C b の底部 1 の底部嵌合部 1 d の張出部 1 f が、下に位置する大箱折り畳みコンテナ C b の短側壁 3 の内壁面 3' の上部角部領域に形成された横長の嵌合凹部 3 b と長側壁 2 の係合枠 2 a 側の内壁面 2' の上部角部領域に形成された横長の嵌合凹部 2 b とにより形成された張出部嵌合凹部 5 に嵌合されるとともに、上に位置する大箱折り畳みコンテナ C b の底部嵌合部 1 d の周囲に位置する底部 1 の底板 1 c の裏面が、下に位置する大箱折り畳みコンテナ C b の長側壁 2 の上面 2'' 及び短側壁 3 の上面 3'' に載置されるように構成されている。

【0 0 2 0】

また、上述したように、底部 1 の底部嵌合部 1 d の角部に、張出部 1 f を形成したので、大箱折り畳みコンテナ C b を安定した状態で、床等に載置することができるとともに、底部 1 の角部が、上方からの負荷により、変形したり、座屈現象を起こすようなことを防止することができる。

【0 0 2 1】

更に、折り畳まれた状態の大箱折り畳みコンテナ C b 同士を段積みした際には、上に位置する大箱折り畳みコンテナ C b の底部嵌合部 1 d の張出部 1 f が

、下に位置する大箱折り畳みコンテナ C b の底部 1 に形成された角部ブロック 1 g の内側段部 1 g 1 に嵌合されるように構成されているので、従って、折り畳まれた状態の大箱折り畳みコンテナ C b の水平方向の移動も制限され、折り畳まれた状態の大箱折り畳みコンテナ C b を、安定した状態で段積みすることができる。

【0 0 2 2】

次に、図 6 ～図 9 を用いて、小箱折り畳みコンテナ C s について説明するが、上述した大箱折り畳みコンテナ C b より小型に形成されている以外は、実質的に、大箱折り畳みコンテナ C b と同一構造を有しているので、その詳細な説明は省略する。なお、大箱折り畳みコンテナ C b の構成部材に対応する小箱折り畳みコンテナ C s の構成部材には、大箱折り畳みコンテナ C b の構成部材の算用数字に、0（零）を付加した符号が使用されている。

【0 0 2 3】

小箱折り畳みコンテナ C s も、平面形状が長方形の底部 1 0 と、底部 1 0 の相対する長辺側土手部 1 0 a にヒンジ連結された長側壁 2 0 と、底部 1 0 の相対する短辺側土手部 1 0 b にヒンジ連結された短側壁 3 0 とにより構成されており、長辺側土手部 1 0 a は、短辺側土手部 1 0 b より高く形成されている。

【0 0 2 4】

小箱折り畳みコンテナ C s の底部 1 0 は、大箱折り畳みコンテナ C b の底部 1 を、短辺側土手部 1 b に沿って 2 等分した大きさと略同じ大きさを有しており、また、小箱折り畳みコンテナ C s の長側壁 2 0 は、大箱折り畳みコンテナ C b の短側壁 3 と略同じ大きさを有しており、更に、小箱折り畳みコンテナ C s の短側壁 3 0 は、大箱折り畳みコンテナ C b の長側壁 2 を、長側壁 2 の垂直辺に沿って 2 等分した大きさと略同じ大きさを有している。

【0 0 2 5】

大箱折り畳みコンテナ C b の底部 1 と同様に、小箱折り畳みコンテナ C s の底部 1 0 の裏面にも、角部に張出部 1 0 f を有する底部嵌合部 1 0 d が形成されている。また、底部 1 0 の長辺側土手部 1 0 a の両端部には、内側段部 1 0 g 1 を有する角部ブロック 1 0 g が形成されている。

【0026】

長側壁 20 には、長側壁 20 の垂直端の上部から、短側壁 30 方向に延在する、透孔 20a1 が穿設された係合枠 20a が形成されており、長側壁 20 の係合枠 20a 側の内壁面 20' の上部角部領域には、横長の嵌合凹部 20b が形成されている。

【0027】

短側壁 30 には、短側壁 30 の外壁面の上部角部領域には、複数個の嵌合突起 30a1 が突設された係合凹部 30a が形成されており、短側壁 30 の内壁面 30' の上部角部領域には、横長の嵌合凹部 30b が形成されている。

【0028】

上述した小箱折り畳みコンテナ C s も、大箱折り畳みコンテナ C b と同様に、図 6 に示されている箱型に組み立てられた状態の小箱折り畳みコンテナ C s の短側壁 30 を、図 7 に示されているように、小箱折り畳みコンテナ C s の内側に倒して底部 1 の上に重ね、次いで、長側壁 20 を小箱折り畳みコンテナ C s の内側に倒して、図 8 に示されているように、底部 10 及び短側壁 30 の上に重ねることにより、折り畳むことができる。

【0029】

また、図 10 に示されているように、箱型に組み立てられた大箱折り畳みコンテナ C b の上に、同じく箱型に組み立てられた 2 個の小箱折り畳みコンテナ C s を、小箱折り畳みコンテナ C s の短側壁 30 が、大箱折り畳みコンテナ C b の長側壁 2 側に位置し、また、小箱折り畳みコンテナ C s の長側壁 20 が、大箱折り畳みコンテナ C b の欄側壁 3 側に位置するように段積みすることにより、大箱折り畳みコンテナ C b の上に、2 個の小箱折り畳みコンテナ C s を段積みすることができる。このように、箱型に組み立てられた大箱折り畳みコンテナ C b の上に、同じく箱型に組み立てられた 2 個の小箱折り畳みコンテナ C s を載置した際に、上に位置する小箱折り畳みコンテナ C s の底部 10 の裏面に形成された底部嵌合部 10d の張出部 10f が嵌合するように、大箱折り畳みコンテナ C b の長側壁 2 の上面 2'' の中央部には、小箱折り畳みコンテナ C s の底部 10 の裏面に形成された底部嵌合部 10d の張出部 10f が嵌合可

能な上部と内側が開放された凹部 2 c が形成されている。

【0030】

同様に、図 11 に示されているように、長側壁 20 が接触するように配置された 2 個の小箱折り畳みコンテナ C s の上に、大箱折り畳みコンテナ C b を載置することもできる。この場合には、下に位置する 2 個の小箱折り畳みコンテナ C s の互いに並設された長側壁 20 の上部が、上に位置する大箱折り畳みコンテナ C b の底部 1 の副嵌合部 1 d' 間に形成された嵌合溝 4 に嵌合されるように構成されている。

【0031】

上述したように、大箱折り畳みコンテナ C b と小箱折り畳みコンテナ C s との組み合わせモジュールにおいて、大箱折り畳みコンテナ C b の底部 1 の長辺側土手部 1 a が、短辺側土手部 1 b より高く構成されているので、大箱折り畳みコンテナの底部 1 の強度や剛性を向上することができ、従って、大箱折り畳みコンテナ C b が、負荷やひねりにより、変形したり、損傷するようなことを防止することができる。

【0032】

また、大箱折り畳みコンテナ C b の底部 1 の長辺側土手部 1 a の両端部に形成された角部ブロック 1 g が、長辺側土手部 1 a の他の部分、換言すれば、角部ブロック 1 g 間に位置する部分より、上方に突出することなく、長辺側土手部 1 a の上端を、角部ブロック 1 g を含め、略一直線状の面一に形成することが好ましく、このように構成することにより、更に、大箱折り畳みコンテナ C b が、負荷やひねりにより、変形したり、損傷するようなことを防止することができる。

【0033】

なお、上述した実施例には、大箱折り畳みコンテナ C b に、2 個の小箱折り畳みコンテナ C s が積み重ねられた例が示されているが、大箱折り畳みコンテナ C b に対する小箱折り畳みコンテナ C s の大きさを、適宜、設定することにより、大箱折り畳みコンテナ C b に、3 個以上の小箱折り畳みコンテナ C s を積み重ねることもできる。

【 0 0 3 4 】**【発明の効果】**

本発明は、以上説明した構成を有しているので、以下に記載する効果を奏するものである。

【 0 0 3 5 】

大箱折り畳みコンテナの底部の長辺側土手部が、短辺側土手部より高く構成されているので、大箱折り畳みコンテナの底部の強度や剛性を向上することができ、従って、大箱折り畳みコンテナが、負荷やひねりにより、変形したり、損傷するようなことを防止することができる。

【図面の簡単な説明】**【図 1】**

図 1 は、本発明の折り畳みコンテナの組み合わせモジュールを構成する大箱折り畳みコンテナが箱型に組み立てられた状態の斜視図である。

【図 2】

図 2 は、図 1 に示されている大箱折り畳みコンテナの組み立て途中或いは折り畳み途中の斜視図である。

【図 3】

図 3 は、図 1 に示されている大箱折り畳みコンテナが折り畳まれた状態の斜視図である。

【図 4】

図 4 は、図 1 に示されている大箱折り畳みコンテナの底部の裏面斜視図である。

【図 5】

図 5 は、図 1 に示されている大箱折り畳みコンテナの底部の部分拡大裏面斜視図である。

【図 6】

図 6 は、本発明の折り畳みコンテナの組み合わせモジュールを構成する小箱折り畳みコンテナが箱型に組み立てられた状態の斜視図である。

【図 7】

図 7 は、図 6 に示されている小箱折り畳みコンテナの組み立て途中或いは折り畳み途中の斜視図である。

【図 8】

図 8 は、図 6 に示されている小箱折り畳みコンテナが折り畳まれた状態の斜視図である。

【図 9】

図 9 は、図 6 に示されている小箱折り畳みコンテナの底部の裏面斜視図である。

【図 1 0】

図 1 0 は、本発明の折り畳みコンテナの組み合わせモジュールを構成する箱型状態の大箱折り畳みコンテナに、箱型状態の小箱折り畳みコンテナを積み重ねた状態の斜視図である。

【図 1 1】

図 1 1 は、本発明の折り畳みコンテナの組み合わせモジュールを構成する箱型状態の小箱折り畳みコンテナに、箱型状態の大箱折り畳みコンテナを積み重ねた状態の斜視図である。

【符号の説明】

C b 大箱折り畳みコンテナ

C s 小箱折り畳みコンテナ

1 底部

1 a 長辺側土手部

1 b 短辺側土手部

2 長側壁

3 短側壁

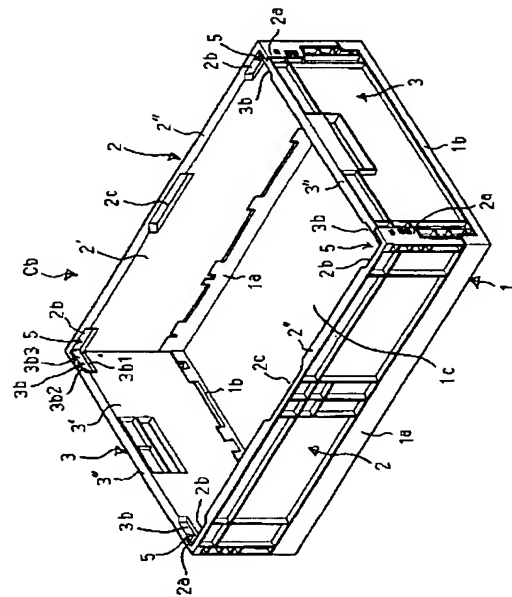
1 0 底部

2 0 長側壁

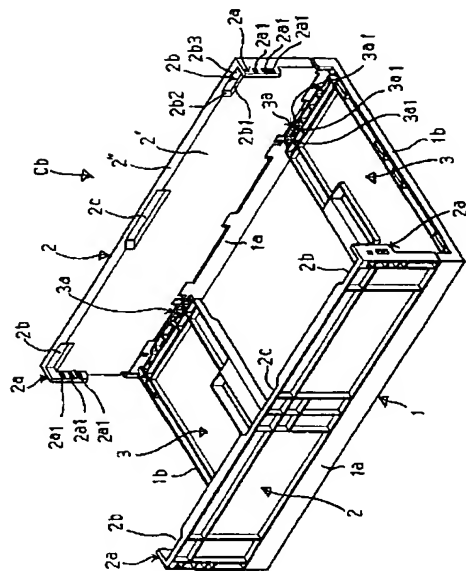
3 0 短側壁

【書類名】 図面

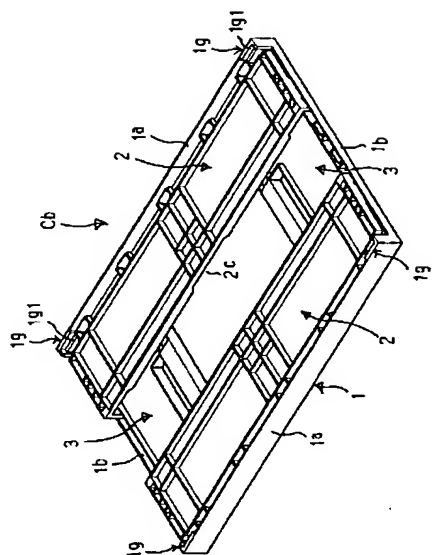
【図 1】



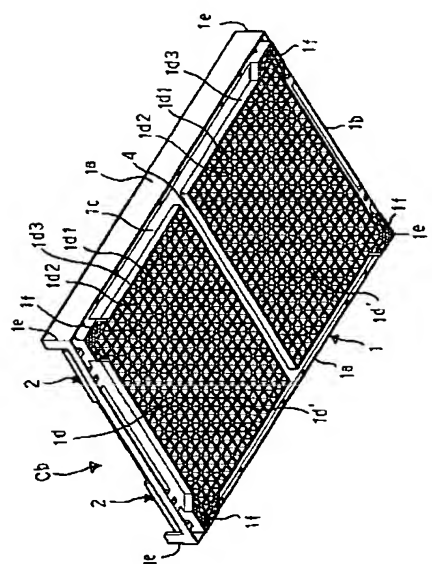
【図 2】



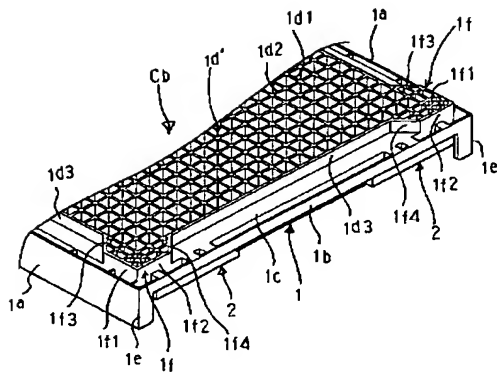
【図 3】



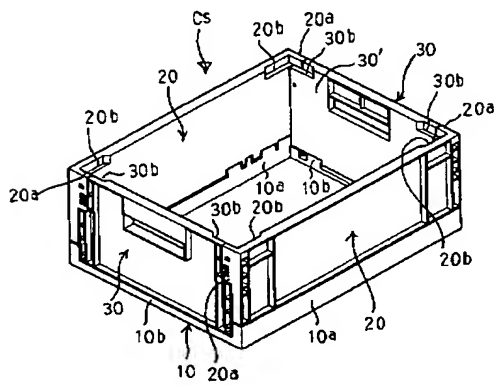
【図 4】



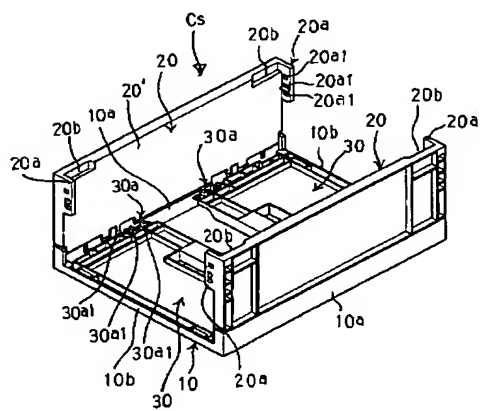
【図 5】



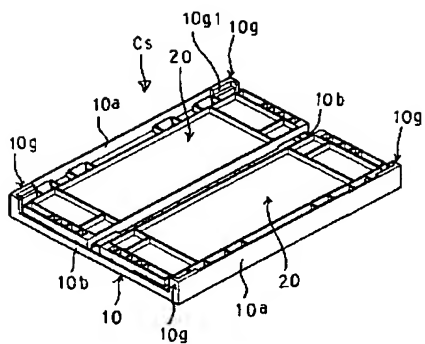
【図 6】



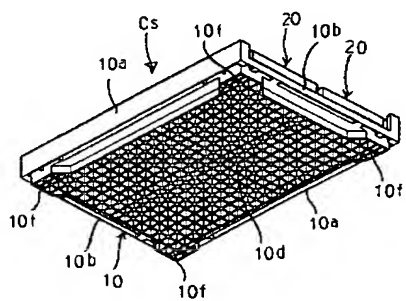
【図 7】



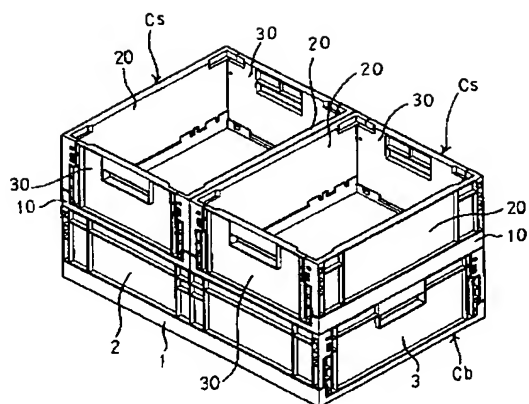
【図 8】



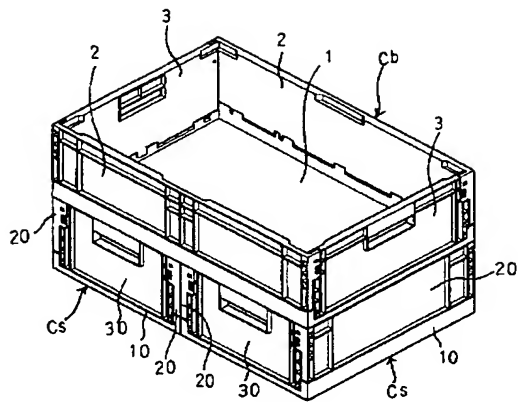
【図 9】



【図 10】



【図 11】



【書類名】 要約書**【要約】**

【解決手段】 折り畳みコンテナの組み合わせモジュールにおいて、大箱折り畳みコンテナ C b の底部 1 の長辺側土手部 1 a を、短辺側土手部 1 b より高く構成したものである。

【効果】 大箱折り畳みコンテナの底部の長辺側土手部が、短辺側土手部より高く構成されているので、大箱折り畳みコンテナの底部の強度や剛性を向上することができ、従って、大箱折り畳みコンテナが、負荷やひねりにより、変形したり、損傷するようなことを防止することができる。

【選択図】 図 1

認定・付加情報

特許出願の番号	特願 2 0 0 3 - 1 3 2 8 2 8
受付番号	5 0 3 0 0 7 7 8 2 6 1
書類名	特許願
担当官	雨宮 正明 7 7 4 3
作成日	平成 1 5 年 5 月 1 6 日

<認定情報・付加情報>

【提出日】	平成15年 5月12日
-------	-------------

次頁無

特願 2 0 0 3 - 1 3 2 8 2 8

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[5 9 1 0 0 6 9 4 4]

1. 変更年月日

1 9 9 1 年 1 月 1 4 日

[変更理由]

新規登録

住 所

岐阜県本巣郡穂積町大字本田 4 7 4 番地の 1

氏 名

三甲株式会社

2. 変更年月日

2 0 0 3 年 6 月 2 日

[変更理由]

住所変更

住 所

岐阜県瑞穂市本田 4 7 4 番地の 1

氏 名

三甲株式会社